



## 特集

### いまどきの技大生

- ・西澤理事・副学長へインタビュー
- ・学長と大学院生との懇談会
- ・夏のゼミ合宿
- ・オープンキャンパスを担当
- ・オープンハウスで指導
- ・技大祭

## CONTENTS

- 2 安全・安心のための研究・教育
- 4 特集—いまどきの技大生—
- 11 オープンキャンパス・父母懇談会報告
- 12 オープンハウス
- 13 高専・技大教員交流研究集会
- 14 シーズプレゼン／私の抱負
- 15 卒業生だより
- 16 にいがたみてある記／編集後記



## 現代GPフォーラム「リスクマネジメント」

### 「長岡技術科学大学主催 現代GPフォーラムを開催」

福村好美  
(eラーニング研究実践センター長 教授)



平成17年8月2日(火) 午後に、本学マルチメディアシステムセンターにおいて、現代GPフォーラムを開催しました。本フォーラムは、文部科学省主催の「現代的教育ニーズ取組み支援プログラム」(略称:現代GP (Good Practice))で、昨年度採択された本学の「安全社会を創成する先進技術教育プログラムeSAFE (e-Learning Program for Safety Advanced Frontier Education)」に関わる研究成果を公開するとともに、各界の指導的立場の講師を招き、今後の我が国のリスクマネジメント教育に役立てることを主な目的としています。

フォーラムでは、本学の小島陽学長の開会挨拶に引き続いて情報セキュリティ大学院大学の辻井重男学長から、基調講演「ユビキタス社会の情報倫理」と題して、情報セキュリティの理念、その精神基盤としての情報倫理の枠組みと、企業経営との関連性などの講演がありました。また、泉田裕彦新潟県知事からは、招待講演「中越大震災の検証と復興に向けた取組について」と題して、昨年の中越大震災での実体験を踏まえて、災害時の



情報セキュリティ大学院大学長の辻井重男氏による基調講演の様子

適確な情報把握の重要性と、そのための分散処理型情報通信システムの必要性、および今後の人材育成方針などの講演がありました。本学の現代GP取組み内容については、私がeSAFEの概念と構成技術、蓬原機械系教授が国際安全規格とリスクアセスメント、渡辺経営情報系助教授が企業経営リスクと事業継続マネジメントについて、それぞれデモ・事例を用いながら解説を行いました。

フォーラム会場では、講演のほか、eSAFE教材を展示して、参加者への詳細な説明がなされました。

当日は、満席の会場のほか、九州工業大学を始めとして、全国の13高等教育機関がSCS中継にて聴講しました。会場でのアンケート調査から、約90%の方が「期待通りの講演だった」と感じ、80%の方がこの講演内容は「今後の活動に役立てることができる」との結果を得ています。

最後に、フォーラム実施に際し、ご協力いただいた各機関、長岡市近辺と遠方からご参加いただいた皆様に深謝いたします。

## 現代GPフォーラム

テーマ「リスクマネジメント」

—安全・安心社会の創成に向けた  
行政・産業・大学の取組み—

プログラム

挨拶 小島陽

長岡技術科学大学長

基調講演 辻井重男

情報セキュリティ大学院大学長

招待講演 泉田裕彦

新潟県知事

現代GP講演 福村好美

長岡技術科学大学eラーニング研究実践センター長

蓬原弘一

長岡技術科学大学機械系教授

渡辺研司

長岡技術科学大学経営情報系助教授



中越大震災の検証と復興に向けた取組について語る泉田新潟県知事

## 化学系安全教育

### 「材料開発工学課程の防火訓練」

伊藤 治彦  
(化学系 助教授)



国立大学の法人化にともない、安全教育の重要性が高まっています。実験中に火災を起こさないこと、万が一火災が起きたときにはすばやく初期消火を行うこと、が大切です。本学・材料開発工学課程では学部3年の1学期に「化学安全学」という1単位の講義科目を設け、講義・試験の他に「防火訓練」を行っています。

今年の防火訓練は長岡市消防本部のご協力のもと、5月26日に行われました。担当官より防火に関する講話およびビデオ上映を1時間ほど行っていたが、その後訓練場所へ移動、大型のバットに水、灯油、ガソリンを入れて火をつけ、学部3年の全員に消火器を操作させて消火訓練を行いました（写



真)。訓練場所は学内で最も標高の高い雑木林の中の広場、青空のもと野鳥の声を聞きながらの訓練となり、都会の大学では絶対に味わえない経験でした。

「安全」に関する独立した講義科目が設けられ消火器の操作が「必修」とされていることは、他大学では例を見ない独自の教育プログラムです。化学薬品を取り扱うことが多い中、特に昨年の震災において大きな事故が起きなかったことは、日頃の安全教育の賜物と「自己評価」しています。

## 公開講座「国際安全規格入門」

### 平成17年度 公開講座 大きな事故が起こるが、それはなぜか。 —国際安全規格入門—

#### 講義内容

期 日 平成17年 8月30日 (火)

受講者数 22人

『社会の安全』13:00~14:30

講 師 蓬原弘一 (機械系 教授)

『家電機器などの安全』14:40~16:10

講 師 木村哲也 (機械系 助教授)

#### 講座概要

JR西の福知山線列車脱線・衝突事故や六本木ヒルズ回転扉事故、東京台場ジョイポリスの遊具施設での乗客転落事故、東武線竹の塚踏切での遮断機操作誤り事故など、昨今大きな事故が目立つ。それはなぜ起こるのか。その原因を、近年このような事故を防止するために国際的に定まりつつある安全規格



社会の安全を語る蓬原教授



受講風景

に基づいて説明しました。

また、国際安全規格の考え方を判りやすく説明し、家電機器、公共施設、ロボットなどについてその適用例を示しました。



# いまどきの技大生

## — 学生生活の充実に向けて —

「第5回学生生活実態調査」（平成16年7月実施）から浮び上がってくる最近の技大生像と、それを大学がどう考えるかについて、西澤理事・副学長（学生担当）にお話をうかがいました。

聞き手 若林 敦（語学センター助教授・VOS専門部会長）

— 昨年度の学生生活実態調査をもとに、このたび『長岡技術科学大学学生生活白書』がまとめられました。

ええ。この調査で本学学生の生活実態をかなり具体的に把握できました。今後、学生の教育・研究活動や経済面をはじめとする生活全般の支援に役立てていきたいと思っています。

— 『白書』から浮び上がる学生像の一つ、本学への満足度についてどうお考えですか。

まず、本学を入学先とした目的・動機を見てもみますと（3つまで選択）、「高専と接続する大学だから」（50.5%）というのが最も多いわけですが、次いで「専門分野の特色にひかれて」（38.0%）、「教養や視野を広げるため」（28.9%）が上位にきています。また、「大学案内を見て」（10.0%）、「大学環境雰囲気がよい」（7.9%）、「社会的評価」（7.1%）など、この大学をある程度知った上での選択であることもうかがえます。非常に健全ですね。入学満足度では「満足」「やや満足」を合わせて70.5%、将来就きたい職業としては「技術・研究職」が71.3%、大学院進学の前定は3年生以下でも50%を超え、4年生で約75%となっています。学部・大学院修士一貫教育によって専門の技術者・研究者を育てるといふ本学の教育システムに7割余の学生が順応していると感じてよいでしょう。

— 一方で、問題点を示すデータもありますね。

学部3年編入学時の「やや不満足」「不満足」「進路変更を考えたい」が合わせて40.3%と、他の学年に比べ多いということです。主な不満理由として「勉強についていけない」「忙しくて、余裕がない」「難しくすぎて単位が取れない」など授業や学業に関するものが、全学年を通じて多くあがっています。ここに、カリキュラムの問題と授業内容や学習支援の問題が現われていると思います。本学では、今年度から、学習を

はじめ学生生活全般の支援のためにアドバイザー教員を全学部生に配置しました。個々の学生の困難が具体的にどういうところで生じているかを集約して、大学として必要な改善を図ることにしています。

もう一つは、大学院に進学せず就職する予定の学生が学部全体を通じて23.2%となっていることです。これも個々に様々な事情があるので一概には言えませんが、やはり修士課程を修了するメリットを、例えば実収入や社会的地位といったことまで含めて、もっと具体的に学生や父母に伝えていく必要があると考えています。また、学生にしてみれば、それ以前に研究への興味や院生生活自体の面白さがなければやっていけないでしょう。研究室の満足度は66.6%とある程度高いのですが、不満足が約3割、理由は研究内容と教員に対するもので、ここにも大学と学生とが協力して解決すべき問題が出てきています。

— 『白書』によりますと、授業内容については約65%の学生が理解できており、約52%が満足していると答えています。

逆に、学力面で困難を感じている学生も少なくないということですね。先ほどの本学への不満理由にもありましたが、そのほかに現在の悩み（3つまで選択）のトップが学業・学力（27.6%）となっていて、また大学院に





進学しないとする学生のうち学力面で困難と答えている学生が18.1%います。アンケートに出てきた具体的な声を見ていきますと、授業内容・方法の改善がまず必要だと思えます。各課程・専攻の専門科目でも、全学共通の専門基礎・教養・語学科目でも、その取り組みを始めていますので、学生の理解度・満足度とも向上するような今後の変化を期待しています。

——**学生生活の充実は学業だけでなく、課外活動による面もありますね。**

学部3年生までは50%以上がサークルに加入しており、ボランティア活動については全体で12.2%、大学院生では約18%が参加経験があると回答しています。昨年は、7月の水害、10月の地震、そしてこの冬の豪雪と、中越地方では大きな自然災害がたて続けに起きましたが、その中で多くの技大生が各地のボランティアとして活動しました。学生達の自主的な活動は彼らの人間的成長の場でもあり、大学としても支えていこうと「学生支援センター」の中にボランティアの問い合わせ窓口を設けています。また、毎年「サークルリーダー研修会」を行って、学生のリーダーシップや組織運営能力の育成を援助しています。春の運動会や秋の技大祭などにも学生達が積極的に取り組んでおり、大学としても協力しています。こういう活動の中で学生のリーダーが育ち、さらに人の輪が広がって、学生の活動がより活発になっていくことは望ましいことです。

——**学生生活を支える経済面や施設・制度面については、『白書』ではどのようなことがわかりますか。**

まず、経済的支援の必要性がはっきりと現れました。家計全体の年収では「300万円以下」が37.6%と最も割合が高く、次が「301～500万円」の18.3%となっています。大学院に進学しないとする学生のうち「経済的に困難」を理由とする者が26.4%。送りなしで生活する学生が18.3%、アルバイトの必要理由では「余裕を持ちたい」が最も多く64.0%ですが、「学業が続けられない」と答えた学生が14.2%いました。学生の月平均支出総額は8～10万円（19.3%）、10～12万円（17.5%）、6～8万円（14.5%）の順です。学生支援機構の奨学金（無利子）は学部生51,000円（自宅外）、修士院生88,000円ですので、送りやアルバイトがなければやっていけない。



ここには、かなり深刻な問題があると真剣に受けとめています。

例えば、寮生の場合は、月平均支出総額3～5万円が最も多いと考えられ、住居費部分だけでもこのように支援できたらよいのは明かです。大学としても文科省に新寮建設の予算要求はしているのですが、国の財政も厳しくなかなか難しい。一方で、本学は来年の創立30周年に向けて現在募金活動を行っています。そこでは特に本学独自の奨学金制度の創設と日本人学生・留学生混住タイプの国際交流会館の建設を目標に掲げていて、この二つの実現に向けて、できる限りの努力をしていきたいと考えています。

施設・制度面では、福利厚生関係で、学内の食堂・売店の利用頻度がかなり高いことがわかります。この大学の立地条件から当然だと思いますが、利用者がよりよいサービスが受けられるよう、要望の反映に大学としても努力したいと考えます。また、現在の悩みでは、対人、性格、恋愛を合わせると各学年とも約20%の割合となっています。大学として学生相談体制の充実も図っており、専門のカウンセラーを配置しています。学生もよく利用しているようです。悩みは深刻になる前に、誰かに相談して、解決への一歩を踏み出してほしいと思います。

——**今日は、学生生活実態調査の結果を学生生活の充実へ、どのように生かしていくかというお話でした。**

『白書』は学生も含め誰でも見ることができずし、教職員にはより詳細な『第5回学生生活実態調査報告書』も配付してあります。これらをぜひご覧いただき、学生や教職員の方々からも様々な意見や提案をお寄せいただきたいと思います。

(2005.8.4)

第5回学生生活実態調査は学部1～4年生、大学院修士1、2年生の合計2,057名を対象として実施され、1,164名（約57%）から回答が寄せられました。記事中の〇〇%は、この回答者中の割合を示しています。

# 特集

## 第2回 学長と学生との懇談会

小島学長と大学院修士課程学生との懇談会が7月6日(水)に開催されました。始めに学長から挨拶があり、来年創立30周年を迎える本学の特色ある教育・研究、社会貢献、産学連携、国際化の取組が紹介されました。次いで、学生が一人ずつ自己紹介を兼ね、院生として日頃考えていることなどを発言しました。その後、意見交換が行われ、学生から大学への意見・要望が出されました。懇談会には丸山、西澤両理事・副学長も出席しました。

### 学生の出席者

石倉 龍太(機械創造工学専攻2年)	田中 聡士(材料開発工学専攻1年)	谷田 耕一(生物機能工学専攻2年)
高島 秀明(機械創造工学専攻2年)	橋本 雅之(建設工学専攻1年)	皆川 明穂(生物機能工学専攻1年)
久保田有吾(電気電子情報工学専攻2年)	佐伯奈都美(建設工学専攻2年)	正岡 和貴(経営情報システム工学専攻2年)
茂原 悠子(電気電子情報工学専攻2年)	小池 貴史(環境システム工学専攻1年)	齋藤優美子(経営情報システム工学専攻2年)
細谷 崇(材料開発工学専攻1年)	金山麻里香(環境システム工学専攻1年)	

### 学生の発言から

#### 学部・大学院修士一貫教育,大学院での研究

- ◆学部の頃は院生という何でもできる人に見えていたが、いざ自分になってみるとできないことが多い。この大学ではそこら中に院生がいるので、特別の存在という気がしない。
- ◆もともと大学院に進学することを前提としたカリキュラムなので、学部4年で卒業するよりも多くのことが学べる。
- ◆企業と連携している研究では、自分のしていることが社会に貢献しているというやりがいを感じる。
- ◆高専の卒論のテーマは先生主導で決めたが、今の修論のテーマは自分で選んだ。より深く研究できる。
- ◆高専では授業に出ながらの研究だったので時間的制約があった。今は、週に何十時間も研究に費やせるので、思う存分研究ができる。



#### 実務訓練

- ◆大学では学べないことが学べる。そのあと大学院で勉強するというシステムは良い。企業でやっていることの面白さを知った。
- ◆学部・修士一貫教育という流れに乗ってだらだらしかねない学生生活の中で、救いになっている面がある。半年近く企業にいと、社会的な意識が養われ、刺激になる。
- ◆就職前に一度企業に行けるといので、ぜひ体験したかった。
- ◆企業が社会で果たしている役割がよくわかる。
- ◆自分に足りないものや自分の課題が見えてきた。社会に出る前にそれがわかると、修士2年間はそれを改善する期間にできる。

#### 学生からの意見・要望

- 学部4年の後半が実務訓練なので、3年の授業がけっこう詰まっていた大変。
- 成績評価の厳しい科目は興味があっても敬遠し、簡単な科目に興味がなくとも選択しがち。いい成績を取るための授業選択になっているのが現状ではないか。授業の難易度や成績評価の平均化はできないのか。
- 技術職員に要望があるときはどうしたらいいか。
- 配属された研究室と合わず、うまくやれない場合、とても困る。

#### 1 授業・研究

#### 大学側からの発言

大学として授業改善に組織的に取り組み始めているので、個々の授業の問題ならば、教員にアドバイスできるようになっている。技術職員への要望は、直接言いくれば指導教員に話してほしい。研究室配属は人数制限もあり難しいが、できるだけ希望に沿うようにしたい。途中で研究室を替わるようなシステムも必要だろう。

学生からの意見・要望

- 貸与枠が少ない。大学院の場合、貸与額が大きいのでそれを減額して貸与人数を増やせないのか。
- 経済的理由で大学院への進学を断念する学生もいる。入学料もかかるし授業料もある。

2 奨学金

学生支援機構の奨学金（貸与）は枠も額も決められている。創立30周年を機に、本学独自の奨学金制度（例えば、ひと月5万円程度を給付）の創設を目指している。入学料・授業料の減免も、例えば、学部生と院生のどちらに厚くするのがいいのかということもある。学生の経済的支援については、知恵を絞って考えていきたい。

大学側からの発言

学生からの意見・要望

- 女子は室数が少なく、空気がなくて入れなかった。
- 高専の寮と比べると、部屋は狭く、あまりきれいじゃない。洗濯機とガスは有料。だから、避けてアパートに入った。改善が必要ではないか。
- 2年間しかいられないのは不便。
- 真冬の2月に集中暖房が止まるのは困る。
- 寮から直接インターネットが利用できるようにしてほしい。
- 街中に寮を作ってはどうか。バスの利用も増え、便数も増加し、駐車場問題も解決するかもしれない。

3 学生寮

学生寮の充実は、大学の立地条件からいっても必要だと考えている。ただ、他の施設整備の計画もあり、予算や経費の制約がある。要望については、できるものから改善を検討していきたい。インターネットの利用は学内情報基盤整備の一環として考えていく。

大学側からの発言

学生からの意見・要望

- 古い研究棟の女子トイレが汚い。
- 構内駐車場に空気が少なく、車を止められないことがある。
- 第1食堂の夕食のメニューを充実してほしい。修士の学生はよく利用する。
- 売店の弁当も、時間がなくて外に食べに行けないのでよく利用するが、いつも同じ種類だと飽きてしまう。
- たばこの自販機がなくなったことが不便。
- 分煙を徹底してほしい。吸殻のポイ捨ても気になる。

4 施設・設備、福利厚生

トイレについては、順次改修していく。建物から離れた駐車場にはスペースがあるのではないかと。食堂・売店への要望は、学生支援課を通じて伝える。たばこの自販機撤去はやむを得ない。健康増進法などで喫煙の機会を減らすことが大学に義務づけられた。喫煙場所を指定して分煙を行っているが、喫煙室を設けることまではできない。

大学側からの発言

学生からの意見・要望

- サークル活動で市内の祭りなどによく出かけていると、長岡市全体を盛りあげていこうという思いが強くなる。技大が長岡市に貢献できることもっとあるのではないかと。
- 技大祭の募金や研究室紹介に先生方の協力をもっとお願いしたい。
- この大学には学生会はないのか。

5 サークル活動、技大祭、学生自治会

学生の自主的な活動は大学としても支援していきたい。活動のための部屋も、30周年の募金次第で、作りたいと考えている。技大祭への協力は執行部としても先生方をお願いしている。学生会も、多くの学生の要望があるならば認めたい。多くの学部生や院生にまず自ら積極的に動いてもらいたい。社会勉強にもなるだろう。

大学側からの発言

学生からの意見・要望

- 健康診断で女子学生に配慮してほしい。例えば、検診日を別にするとか、検尿の仕方など。

6 女子

体育・保健センターに伝え、改善を図りたい。

大学側からの発言

学生の皆さんは、「技大通信平成17年10月号（学生支援課）」でより詳しい内容をご覧ください。また、大学への様々な要望は学生支援課でも受け付けています。



# 特集

## — 夏のゼミ合宿 —

### ゼミキャンプ

リスクマネジメント研究室  
**正岡和貴** (津山高専出身)  
 (大学院修士課程 経営情報システム工学専攻2年)

私たちは、7月末のオープンキャンパスが終わると同時に、津南のキャンプ場に向かって出発しました。今回は、M2の就職祝いとB4の研究発表の打ち上げを兼ねたゼミキャンプで、研究室初のお泊まりイベントでした。実際は、コテージでバーベキューをして一泊しただけなので、キャンプとは言えませんが。自分は今回、オープンキャンパスと併せて幹事を仰せつかりましたが、個人プレー主体の研究室なのでなかなか大変でした。

いざキャンプ場へ向かってみると、道がわかりにくかったり、炭がしけていて火がつかなかったり、雨が降り始めたりとそれなりに問題も発生しましたが、静寂に包まれた夜や満天の星空など、普段は余り体験できないような一時を過ごせました。また、先生自ら腕をふるった沖縄そばや虎の子の焼きマシュマロは、程よく酔っぱらったみんなに

とても好評でした。そして、一番印象に残ったのは、コテージのすぐ近くに蛍の群れがいたことです。大学の付近にも蛍は生息していますが、こういった雰囲気で見える蛍は、また格別でした。翌朝は、先生が夜明けとともに東京へ戻られたり、朝寝をしすぎて結局片づけだけで帰途に就くことになりました。

次は、冬にまたどこかへ旅行へ行こうという話が持ち上がっています。もちろん、そのときの幹事は別の人をお願いします予定です。



夜はやっぱり飲み会



全員でコテージに宿泊



釣りやカヤックが楽しめる湖

### ゼミ旅行 '05 ～長野～

有機分子設計研究室  
**森本智貴** (大阪府立高専出身)  
 (大学院修士課程 材料開発工学専攻2年)

今年のゼミ旅行は8月12日、13日に長野県戸隠村方面へ行きました。天気とお盆の交通渋滞が心配でしたが難なく最初の目的地である忍者村に着きました。

忍者村ではみんな童心に返り、手裏剣ダーツや忍者の格好で水蜘蛛の術に挑戦し、池に落ちて研究室のメンバー以外の観光客も笑わせていました。

その後、戸隠忍者資料館へ行き、戸隠流忍者の歴史や忍術について学びました。資料館に隣接したからくり屋敷では各部屋に仕掛けがあり、それらを見破り出口を目指しました。

次の日、日本の明かり美術館という所いき、江戸時代の行灯や明治時代のランプなど日本の照明器具の歴史を学び、火付け石を使った火起こしを体験しました。

最後は善光寺で本堂の本尊下の真っ暗な曲がり

の多い通路を巡り極楽のお錠前に触れる戒壇巡りでした。本当に真っ暗で何も見えず、壁を触りながら歩くと極楽のお錠前に触れることができました。

帰り道では渋滞と大雨に遭いましたが、無事に長岡へ帰って来る事ができました。



筆者は前から2列目、左から2人目

# 一担当・指導を終えて

## オープンキャンパスを終えて

榎本 聡 司(旭川高専 出身)  
(機械創造工学専攻1年)



僕たち流体工学研究室は主に空気や水の流れ、それにより発生する渦についての研究を行っています。この流体というものは、皆さんの周りに常にあるものなのに、意外と知られていないことが多い分野です。フォークボールがなぜ落ちるか知っていますか？全ては流体工学によって説明できるのです。

オープンキャンパスは思いのほかたくさんの方が見学者の方が来て、大盛況と言える結果でした。僕たちは説明班・実験装置管理班の4人体制で万全の体制をとって臨みました。しかし僕たちは大変なことを一つ忘れていました。それは「流体を説明することは難しい」ということです。上でも言った通り、意外と知らないことの多いこの分野。理解してもらえようように説明すると、かなり時間がかかってしまうのです。それに大盛

況が重なれば、結果は自ずと…研究室・教授総動員でフル活動！この満員御礼の状況と、来てくれた人全員に理解してもらいたいという気持ち重なって、終わったときには全員疲労困憊でした。しかしその充実感は、なかなか得がたいものかなとも思いました。

毎年恒例となっているオープンキャンパスは、意外と僕たちにとっても得るものが多い行事になっています。



渦ってなに？実際に見て、体験してみました

## オープンハウスを通じて…

石坂 一 樹(長岡高専 出身)  
(電気電子情報工学課程 4年)

僕たちの研究室では、「JPEG2000」と「ロボットビジョン」の2つのテーマについてオープンハウスを実施し、僕の担当は「JPEG2000」の方でした。

8月の開始にむけて、6月頃から準備をしてきたのですが、準備期間はわからないことだらけで、本当に大丈夫なのかと、とても不安でした。

でも、いざ8月になり、オープンハウスが始まってみれば、不安を感じている暇もないぐらい忙しく、高専生の疑問や質問に答えることにいっぱいいっぱいの毎日でした。

最初は緊張していたであろう高専生たちも、教えるということに未熟さが目立っていた僕自身も、時間がたつにつれ、徐々に慣れていきました。高専生は積極的に質問を、僕はもてる限りの力を尽くして説明をしました(…理解してもらえたかは疑問ですが)。そして、最終的に高専生たちは、大変素晴らしい発表をし

て帰っていきました。

オープンハウスを通じて、僕は、「教えること」の「難しさ」と「楽しさ」を学びました。準備の苦勞と、言いたいことを表現することの難しさはよい経験に、そして、理解してもらえたときの感動は、この夏のいい思い出になったと思います。



高専生への指導する筆者(中央)



# 特集

## 秋の学生行事

# 第25回 技大祭

—9月17日(土), 18日(日)—



レスキューロボットを遠隔操作してみました



### テーマ「rebirth」

今年も恒例の技大祭が9月17日(土)～18日(日)に行われました。今年のテーマは「rebirth」。「rebirth」には「生まれ変わる・復興」という意味があります。本学の所在する中越地方は、昨年「中越地震」に見舞われ、多くの方々が被災されました。そこで、「復興」のための元気を出してもらおう、また、第25回目という節目で「生まれ変わろう」ということでこのテーマを設け実施しました。両日とも天気に恵まれ、本学を訪れた一般の方、子供たちの参加により盛況のうちに終了することができました。特に今年は例年より研究室公開が盛んで、大学を訪れた人に大変好評でした。



留学生もお国自慢の料理を披露しました



化学のおもちゃ箱では子供たちが理科実験にチャレンジ



たくさんのお客でにぎわう構内

### 実施イベント

- PANライブ
- ハリガネロックライブ
- 長岡向陵高校ダンス部公演
- ESL英語劇
- PMCライブ
- ロボ丸
- 研究室公開  
「化学のおもちゃ箱」  
「たたら製鉄実演」  
「ミニチュアコンクリート船作り体験」
- 悠久太鼓愛好会, 転太鼓舞 (長岡造形大), 吹奏楽部演奏, 津軽三味線演奏
- 実戦空手道部, 合気道部, 剣道部, 少林寺拳法部演武
- 体験講座「生け花&押し花小物作り」
- 模擬店
- フリーマーケット
- ストラックアウト
- シールラリー
- 腕相撲大会
- 抽選会
- 一筆!お絵かきクイズ
- ヘルスチェック
- 貸衣装
- サークル展示, 学内展示他



悠久太鼓愛好会「鶴亀会」による演奏



図書館による特別展示「技大と地震」



各サークルが模擬店で腕をふるいました



## 「オープンキャンパス」

第15回目となる今年度のオープンキャンパスは7月31日(日)に開催し、北海道から九州まで381名の方が参加されました。猛暑の中、お越し下さった皆様には心よりお礼申し上げます。

### ○参加者数

	高校生	高専生	教諭	父母等	計
県内	207	1	7	59	274
県外	56	12	5	34	107
計	263	13	12	93	381

### ■日程■

- 10:00 開会, 学長あいさつ
- 10:10 大学紹介ビデオ上映
- 10:20 本学の特徴色説明
- 10:45 公開研究室見学  
模擬講義
- 12:00 進路相談 入試相談  
学生生活・履修相談 図書館見学
- 12:30 工学分野の説明
- 15:30 アンケート記入, 解散

### 参加者からの声～高校生～

- ・普段体験できないことが体験できて良かったです。この大学は広く、設備も良く、自分にとって興味のあることが学べそうなので受験したいです。ありがとうございました。
- ・研究室が思ったより専門的でビックリしました。どの学生さんも優しく親切で紳士的でした。
- ・とても大きな大学だったので、見たい所が多くて困りましたが、案内をしてくれた学生さん達のお

陰で色々な所を見ることが出来て助かりました。  
・大学生の対応が優しく、説明も丁寧に分かりやすくとても良かった。

### 参加者からの声～父母～

- ・学校の設備が整っていて、素晴らしいと思いました。学生さん達の真面目な対応で色々説明していただき、大変良いお話を聞くことが出来ました。
- ・周辺環境にも恵まれ、とても良い印象を受けました。研究室で説明していただいた在学の方々も好印象で一生懸命さが伝わってきました。
- ・学生の皆さんがとても親切でよかったと思います。

皆様からお寄せ頂いたアンケートは、来年度のオープンキャンパスのより一層の充実のために活用させていただきます。

このたびの開催に協力いただいた関係者の方々には、この場を借りてお礼申し上げます。



模擬講義



工学分野の説明



進路相談



カオス・フラクタル情報科学研究室

## 平成17年度「父母懇談会」を開催

本学では「父母懇談会」を7月31日(日)に開学以来初めて開催し、北は北海道から南は宮崎県まで、30の都道府県より300余名の大勢の方々の参加をいただきました。

これは、学部学生のご父母等を対象に、本学の近況報告、個別面談、研究室公開等を行って、父母の方々との懇談により、本学に対するご意見、ご要望を伺うとともに、本学への理解を深めていただくことを目的に実施されたものです。

個別面談(修学相談、進路・就職相談、学生生活相談)では、なごやかな雰囲気の中で、それぞれ担当教員と熱心な情報交換が行われました。当初予想した以上の参加者数で、進路・卒業等を含めた本学の教育に対するご父母の方々への関心の高さがうかがえる結果となりました。





## オープンハウス

平成11年度から始められた「オープンハウス」は今年度で7年目を迎え、全国高専の本科4年生及び専攻科1年生を対象に、7月22日から8月31日まで実施されました。

受講生は、あらかじめ本学の各研究室で設定したテーマを選択し、一週間もしくは二週間の期間で、本学教員、大学院生から指導を受けました。

受講者数は、33高専、123名（男子105名、女子18名）となりました。

沼津高専制御情報工学科から参加の廣田さん（女子）は、「とにかく構内が広いし、研究室が多くてビックリしました。学校で習ったところが思わぬ所で役に立って良かったです。（笑）」と話してくれました。

他の受講生からも、「先輩方の指導がとても丁寧で分かりやすかった。」、「非常に多くのことを学べて大変有意義なものでした。」等の感想があり、好評のうちに終了しました。

### 平成17年度長岡技術科学大学 オープンハウステーマ別受講生調

系	全テーマ数	受講テーマ数	受講者数
機械系	26	12	25
電気系	34	15	38
化学系	14	5	11
環境・建設系	11	7	15
生物系	11	8	27
経営情報系	4	3	7
合計	100	50	123

### 平成17年度オープンハウス高専別受講生数等

地区	高専名	人数	担当系					経営情報
			機械	電気	化学	環境建設	生物	
北海道・道北	函館	1		1				
	苫小牧	1		1				
	旭川	3 (1)				2 (1)	1	
	八戸	4	2		1		1	
	宮城	5 (4)	1				2 (2)	2 (2)
	仙台電波	2		1				1
	秋田	6 (1)	1	1		3	1 (1)	
	鶴岡	15 (1)		4	2 (1)	1	8	
関東	福島	5	4			1		
	茨城	1		1				
	小山	10 (2)	2	2	3 (1)		3 (1)	
	木更津	3	1	2				
	東京	1	1					
	都立航空	7	5	1		1		
	サレジオ	2		2				
	中部	富山	12	1	7	2	1	
富山商船		12 (3)	3	5 (2)		1 (1)	1	2
福井		2 (1)		1 (1)		1		
岐阜		1			1			
沼津		4 (2)	1	2 (1)			1 (1)	
豊田		1		1				
舞鶴		1		1				
和歌山		2	1		1			
近畿	大阪府立	6 (1)		1		2	3 (1)	
	神戸市立	3 (2)					3 (2)	
	近畿大学	1		1				
	中国	米子	4	1	1	1	1	
津山		2		1			1	
宇部		1				1		
四国	阿南	1	1					
	新居浜	2					2	
九州	佐世保	1		1				
	鹿児島	1						1
合計	123 (18)	25	38 (4)	11 (2)	15 (2)	27 (8)	7 (2)	

注1) ( )内の数字は女子学生で内数。

### ～参加学生から一言～

## 大学で学ぶということ

石橋 勇人  
(福井高専 環境都市工学科 4年)

今回、都市地下空間の開発と有効利用というテーマでオープンハウスに参加しました。ほとんど知識がないまま長岡技大に着き、不安だらけでクラブハウスに向かいますが、すぐに友達もできて、快適に過ごせました。

オープンハウスでは、先輩や先生が優しく、楽しく接してくれたのでとてもおもしろかったです。7.13水害や中越地震の話聞き、被災地を実際に見ることができ本当に良い経験になりました。また、シールド工法についてはより多くの知識を付けることができました。大学で学ぶ楽しさが理解できました。短い間でしたが、ありがとうございました。



中越地震による旧山古志村の被災地（筆者は左）

# 高専一長岡技術科学大学教員交流研究集会

高専と本学の研究交流の一層の活性化を図ることを目的とした今年度の研究集会は、機械系、化学系と電気系、経営情報系の4系で開催されました。

各系とも、高専、技大での教育・研究の現状紹介、高専と技大との連携に向けた取り組みなど、活発な意見交換がなされました。



電気系の様子

## 平成17年度の実施状況

系名	機械系	化学系	電気系	経営情報系
テーマ	基礎教育への回帰 —地震が来ても揺ぎ ない基礎学力の確立 を目指して—	変革期における高専 と技科大の連携	JABEE受審及び 高専専攻科と技大と の連携	教育・研究における 連携のための基盤構 築と展開
参加者数	本学教員 50人 高専教員 54人 合計104人	本学教員20人 高専教員15人 合計35人	本学教員45人 高専教員33人 合計79人	本学教員16人 高専教員 6人 合計22人
開催日	8月4日(木) ～ 8月5日(金)	8月4日(木) ～ 8月5日(金)	8月22日(月) ～ 8月23日(火)	8月22日(月) ～ 8月23日(火)

## ～参加教員から一言～

### 高専・技科大教員交流研究集会 に参加して



白野 啓一  
(鶴岡高専 機械工学科教授)

8月4,5日に高専・技科大教員交流研究集会(機械系)が開催されました。テーマは「基礎教育への回帰」です。技科大学長小島陽先生のご挨拶の後、(株)日産アーク取締役社長阿部栄一氏より「企業が望む高専・技大における技術教育」と題して基調講演がありました。続いてリレートークに入り、技科大中村和男先生の「技科大としての教養教育の再構築に向けて」、福島高専鈴木敬了先生の「福島高専コミュニケーション情報学科における英語教育：現状と課題」、小山高専須甲克也先生の「数学教育指導における授業以外の工夫について」、長岡高専佐藤秀一先生の「『できるまでやる』数理演習の実践報告」、技科大宮田保教先生の「長岡技大における自然科学教育の現状と将来」

と題してそれぞれ現状報告と実践例、授業の工夫等の紹介をいただき、大変参考になりました。

1日目終了後、宿に移動しましたが、先の中越地震復旧のため道路の補修工事がまだ行われており、山肌には土砂崩れの後がそのまま残っていました。宿も被災されたと聞きましたが、すっかり復旧し明るく対応していただいたことが印象的でした。また、各高専・技科大の先生方と同宿で他校の様子を伺えて有意義な宿泊でした。

研究集会2日目は、仙台電波高専の菅谷純一先生の「オープンキャンパスの取組と評価(電子制御工学科の場合)」の講演、技科大の白樫正高先生から「長岡技科大オープンハウスの概要」の紹介、技科大学術情報課から「長岡技大図書館の高専連携事業」の紹介をいただき閉会となりました。

高専からの編入生のみならず高専教員の活動も支援していただいている技科大の先生方に感謝いたしますと共に、研究集会のお世話をいただき心から御礼申し上げます。





## 技大・高専シーズプレゼンテーション

8月25日(木)、本学の3会場で「平成17年度長岡技科大・長岡高専技術シーズプレゼンテーション」を開催しました。本事業は、本学と長岡高専が企業とマッチングを図れる技術シーズの発表と、本学が保有する公開及び未公開特許に関わる技術シーズを紹介するものです。

当日は、企業関係者、リエゾン関係者、研究機関など様々な関係者から多数の参加があり、本学等への関心の高さが伺われました。また、産学官一層の交流・マッチングの場として、立食形式での昼食交流会を行いました。ここでは各人が積極的に名刺交換をする姿が見られました。

参加人数等

会場	内容	延べ参加数
A会場(B講義室)	技術シーズプレゼンテーション 産業ニーズと技術シーズのマッチング -共同研究の産声-(化学系,生物系,経営情報系)	192人
B会場(マルチメディアシステムセンター)	技術シーズプレゼンテーション 産業ニーズと技術シーズのマッチング -共同研究の産声-(機械系,電気系,環境・建設系,長岡高専)	223人
C会場(総合研究棟)	特許紹介 本学が保有する公開及び未公開特許に関わる技術シーズの紹介 -技術移転と産業化に向けて-	59人



A会場の様子(B講義室)



B会場の様子(マルチメディアシステムセンター)



C会場の様子(総合研究棟)



昼食交流会の様子

## 私の抱負 Message



### 「人の可能性をもとめて」

柴崎 秀子  
(留学生センター 教授)

「人が何かを読んでわかったと思うとき、心内にはどのような状況が構築されるのか」ということをテーマに研究をしています。明示された文字情報は同じであっても、人によって受け取るものは様々です。さらに、外国語で書かれたものを読んだ場合はどうなるのでしょうか。今日までの研究では、テキストの内容はテキストの中にあるのではなく、文字情報と読み手の知識との相互作用でつくられたものであると言われています。つまり、人は自分が読みたいようにしか読んでいない、ということになってしまいます。このように、人ほど面白く興味深いものはありません。

人と動物の相違点が、言語や道具の使用や二足歩行だということはすでに否定されています。では、人を人たらしめるものは何でしょうか。私は人の特徴は「意味を求めること」と「推論ができること」と考えています。今、目に見えているものを材料に、目に見えないものを想定できるのは人間だけです。だからこそ、人は希望を持つとか、何かを決意するということができるのではないのでしょうか。

私もこの技大で深く決意するものがあります。それをこれから一歩ずつ形にして参りたいと思っております。皆様、どうかよろしくお願い致します。





## 6年間の大学生活を経て・・・

須賀 由美子

勤務先：京王バス東株式会社  
営業部 営業第一担当

(平成17年3月 環境システム工学専攻)

平成11年4月に入学し、6年間の長岡での生活を経て、今年の3月に環境システム工学専攻（都市交通研究室）を修了、この春京王バス東（株）に入社しました。現在は、3ヶ月間の現場研修を終え、本社配属となりました。

修士論文では、長岡市の路線バスに関する研究を行いました。現配属先では念願の路線バスの乗合事業を担当することとなりましたが、これまでとは全く違う環境でのバス事業に、戸惑いながらも日々奮闘しています。

冒頭でも述べた通り、私は長岡技術科学大学を学部1年生で入学し、6年間の学生生活を長岡で過

しました。今思えば、本当にあっという間の6年間でした。実家の九州を離れ、全く未知の長岡へ来た私にとって、全てのものが新鮮で興味深いものでした。現在は、新しい東京での生活に当時と同じような心境を感じていますが、長岡の経験が糧となり、今の私は6年前より成長できた自分であると思えます。

今在学中の皆さんに私が言えることは、今しかない貴重な時間を、次のステップへ活かせるよう、毎日を大切に、学業に遊びに励み、多くの経験を培ってくださいということです。学生時代に過ごした時間はきっと皆さんの大きな成長につながると思います。



## 後輩へのアドバイス

外川 陽一

勤務先：株式会社 東京精密  
汎用計測グループ



(平成16年3月 機械システム工学専攻修了)

私が大学を卒業し、社会人エンジニアとして働くようになってから、約1年4ヶ月の月日が経ちます。社会人初年度は緊張の連続であり、今振り返るとあっという間の1年間でした。

私は今、計測機器メーカーで働いています。精密測定に関する研究室に所属していた為、私にとって計測機器メーカーで働く事はごく自然な流れでした。

会社において大学、研究室で学ぶ様な専門的知識は確かに必須ですが、これ以外にも必要かつ重要な能力があると現在感じています。これは業務の進捗を常に自分で管理し、スケジュール通りに与えられた開発業務を達成する能力です。当たり前の様ですが、会社では当然、製品の納期があり、これに間に合う様開発業務を進めなければなりません。上記を意識して研究を遂行すれば、入社後はスムーズに業務を

行えると思います。

また私は卒業までに出来るだけ多くの知識・技術を習得する、という意識を常に持っていました。研究活動・授業だけでなく、日頃から自分で勉強する習慣を身に付けるとよいと思います。私の会社では、自分に課題を設定し、これに取り組み、成果を会社へ報告する事が義務付けられており、入社後も常に勉強する事が必要となります。

最後に、もちろん研究以外にも、遊びその他、積極的に活動し、有意義な大学生活を過ごして下さい。



職場の先輩と（筆者は左）

## 恋人岬(柏崎市)

寺澤 武(留学生課)

長岡技術科学大学を出発し、国道8号線を上越方向に車で約50分、鯨の形をした地下道に遭遇した。この鯨は時々本物さながらに潮を吹くことで有名である。今日は機嫌が悪いのか、潮を吹く勇姿にはお目にかかれなかった。名残惜しいが鯨に別れを告げて再び上越方向へ。日本海が見えてきた。今回の旅の目的地、鷗ヶ鼻はもうすぐだ。

この鷗ヶ鼻、近年では恋人岬という名前で呼ばれることのほうが多いらしい。福浦八景という美しい日本海の海岸を見下ろせる断崖の岬だ。

岬の麓にある日本海フィッシャーマンズケープに車を止め、少し休憩をとることにする。ホテルから鮮魚センター、グッズショップまで併設されているこちらにも、恋人岬同様に多くの人を訪れる人気スポットだ。柏崎で泳ぐ際には、帰りに立ち寄られることをお勧めしたい。

日本海フィッシャーマンズケープを後にして、丘を登ること約10分、展望台が見えてきた。本名の鷗ヶ鼻が示すとおり、この岬はかもめが遊ぶ景勝地だったはずなのだが、(もちろん現在でも景勝地で、美しい海岸線や天気の良い日には佐渡島を望むことができる)最近ではすっかりデートの定番スポットになってしまったようだ。何でもここに設置されている柵に、想いを

込めた鍵をかけると恋愛が成就するそうだ。南京錠やメッセージを書き込んだプレートがあちらこちらの柵に咲き乱れている様は、ある種の前衛芸術にも思える。

この地が恋人岬と呼ばれるようになった由来を調べてみた。ここで多くを語ることは避けさせて頂くが、越佐海峡を舞台にした、江戸時代の悲しい恋に端を発しているとの事だった。遠く江戸時代に思いを馳せ、海の彼方を眺めてみたが、雲に隠れて佐渡を見ることができなかったのは残念である。

そうこうしているうちに日が傾いてきた。日本海沿岸には、夕日のきれいなスポットと銘打たれているところが数多くあるが、ここも美しい夕日を眺めることができる。やはり夕日は太平洋より日本海が似合うと思うのは私だけだろうか。

美しい景色と悲しい恋の物語が紡ぎ出す、どこか感傷的な空気につつまれて、その日は丘を下った。

寒風吹きすさぶ中、冬の日本海を眺めに行くのも風情があるが、秋が深まりもの悲しさが増してしまう前に、一度足を運んでみてはいかがだろうか。



佐渡を望む



岬の風景

## 編集後記

今号は、夏休み中に行われた様々な学内行事を中心に、紙面を構成しました。自身の昔を思い出せば、楽しくもあつという間に過ぎてしまった夏休み、いや学生時代全体がそうだったように記憶しておりますが、いまどきの技大生は何を思い、どんな毎日をごしているのか、その一部だけでも技大生の等身大の姿をお伝えできればと思います。幸いにして本誌VOSは、在校生のみならず、あらゆる世代の方に読んで頂いております。高校生・高専生の方は未来の自分を想像しながら、卒業生・父母の皆様方は、過去の自分を重ね合わせながらご覧頂ければ、より楽しくお読み頂けるかと思ひます。(編集委員)



2006年10月1日  
開学30周年を迎えます。

VOS129号(平成17年9月)

編集発行/長岡技術科学大学広報委員会(総務部 総務課)

\*本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。

〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1

Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000

E-mail skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp

URL : <http://www.nagaokaut.ac.jp/>

## VOSの由来

本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。